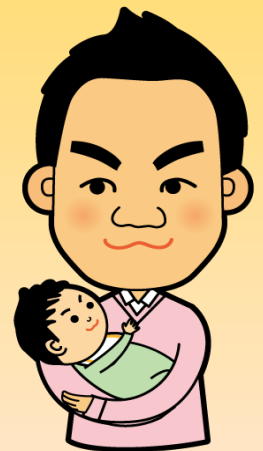


子育て同盟サミットinとっとり  
によせて

平成25年7月28日(日)  
米子コンベンションセンター

# 三重県の子育てに係る具体的な 取組みについて

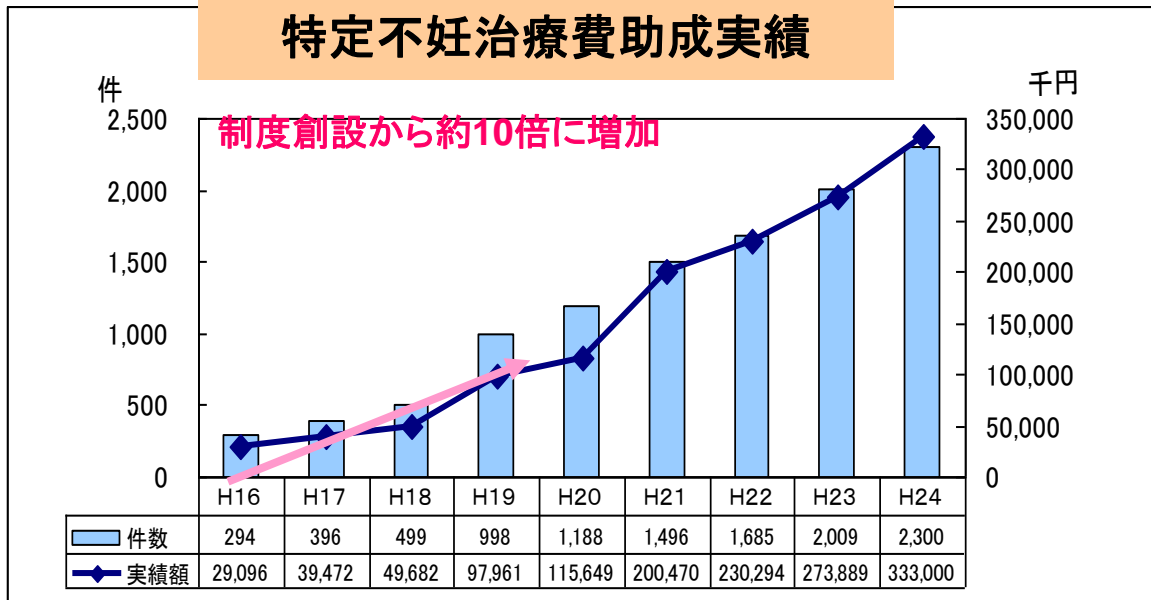


三重県知事 鈴木 英敬

# ○不妊治療助成



## 特定不妊治療費助成実績



三重県では、国の補助制度に上乗せし、夫婦の所得400万円未満の夫婦を対象に、1回10万円上限(年1回、通算5回まで)助成

※国の補助制度 1回の治療につき15万円を限度に、1年度あたり2回(平成23年度からは初年度は3回)まで通算5年間又は通算10回まで助成

## ○フランスとの比較

	治療費	年齢制限	治療回数	指定医療機関	40歳以上治療者(妻)	法律
フランス	全額(保険)	42歳	4回まで	約100	約10%	あり
日本	一部助成	なし	10回まで	564	30%	要綱

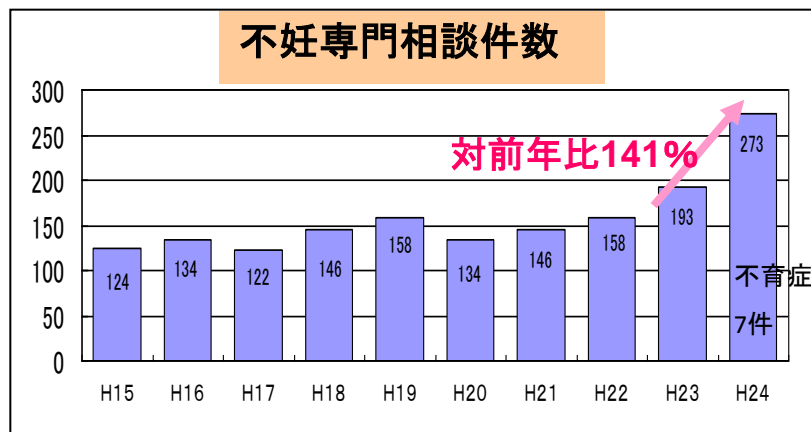
・三重県で、42歳までに制限した場合8.4%が対象外に

三重県の40歳以上の治療者 27%(H23)  
35~39歳が41%

# ○不妊専門相談件数



夜間相談窓口は全国で5県

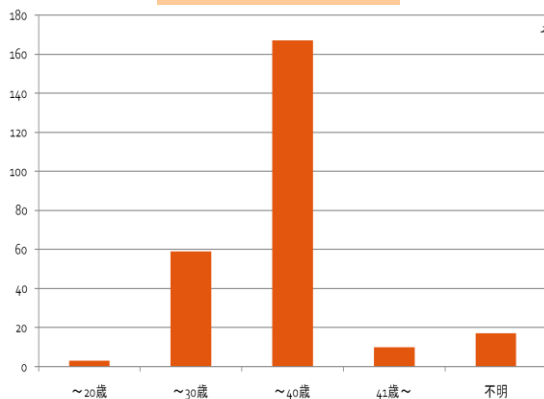


毎週火曜日10時から20時実施

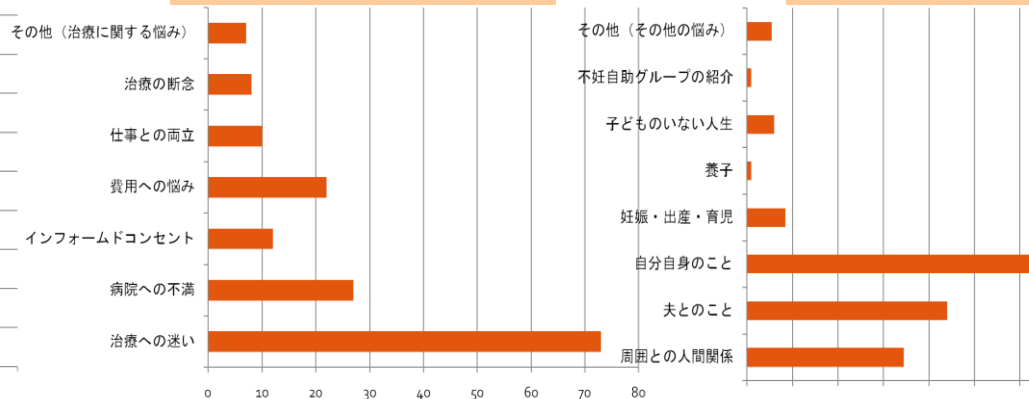
「不妊症看護認定看護師資格」を有する助産師を不妊カウンセラーに配置し、不育症も含めた相談に対応

※働く女性の増加に配慮し、平成23年度から午後8時まで相談時間を延長

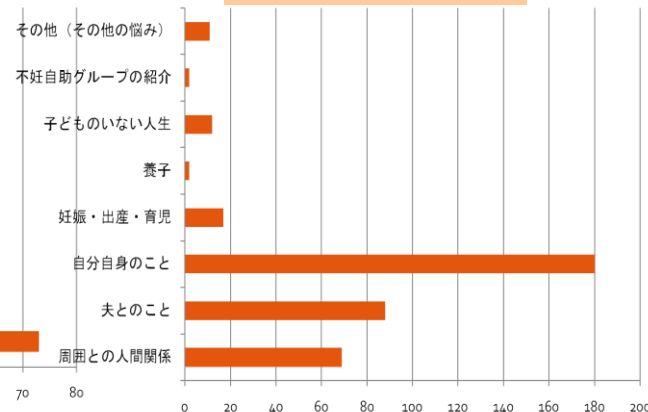
## 相談者年齢



## 治療に関する悩み



## その他の悩み



# ○ライフプラン教育



## ○中学、高校における「保健体育」での学び

- ・思春期の健康 ・妊娠、出産と健康 ・結婚生活と健康等

## ○高校における「総合的な学習の時間」での学び

- ・「高校生の親育ち講座」・・・命の大切さや性に関し学ぶ

- ・性をめぐる諸問題について学ぶ

- ・中学、高校、特別支援学校における産婦人科医・

助産師等による講演（H24年度：10校1,262人が受講）

性の理解と性感染症予防、こころや体の成長や自己肯定感の向上

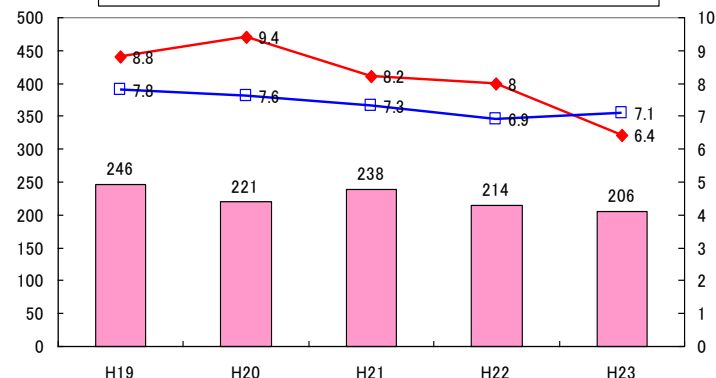
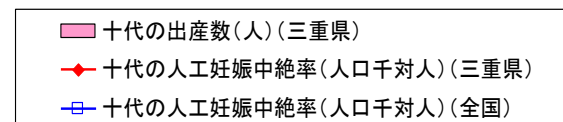
- ・思春期健康教育（H23年度 9市町2,220人が受講）

## ○赤ちゃんとのふれあい体験（小学校、中学校）

- ・乳幼児とのふれあいや母親との交流会の実施

（H23年度：6市町で実施）

妊娠等ライフプラン全体に関わる知識・情報を対象者の発達段階に応じて適切に情報提供、啓発普及を図ることが有益である。



# ○病院内学童保育所の開設



## ・子育て中の女性医師のキャリアアップを支援

- 三重大学医学部附属病院では、平成24年度に女性医師支援ワーキンググループを立ち上げ、意見・要望を集約し病院内に学童保育所「さくら組」を開設。

【開設日】平成25年3月26日(4月より運営開始)

【運営体制】指導員2名体制で運営

※県の子育て医師等復帰支援事業を活用

## ※子育て医師等復帰支援事業(H24~)



県内の病院が取り組む、

- ・子育て等により離職した医師の復職研修プログラムの作成
- ・復職に向けた研修体制や子育て中の医師の勤務環境整備 等

子育て支援の仕組みづくりを財政的に支援

# ○四日市市父親の子育て情報誌「よかパパスイッチ」



平成22年度から「子育てマイスター」の養成講座を開始、養成講座修了者とともに子育て情報誌「よかパパスイッチ」を作成（平成24年度末現在修了者：16名）

- ・作成部数：15,000冊
- ・目的：父親が笑顔で子育てを楽しむために作成

## ・掲載内容

わが子が誕生するまでと誕生してからの二部構成  
妊婦を理解することや妊娠期間の夫婦の過ごし方、  
父親が子育てをどのようにして楽しんだらよいか  
を掲載



## ・ヨカパパ体験談掲載例

### 「おむつ交換」

初めのころはわからないことばかりで戸惑っていましたが、何回もおむつ交換することでママも「安心して見ていられるわ！」と言うようになりました。

# 自らの「育休っぽい休暇」の経験から



先月、育児休暇を取得した三重県知事

鈴木 英敬さん(38)



6月4日に第1子の長男結大ちゃんが生まれ、7月に延べ3・5日間の育児休暇を取得した。「周囲の協力と理解のおかげです。育休制度があっても、職場の雰囲気など

兵庫県出身。東大経済卒。経済産業省勤務を経て11年4月の知事選で初当選した。現在、全国最年少知事。(写真には妻美保さん、結大ちゃん)

知事就任前、首長が育児で休むことを「危機管理はどうか」と批判したこともある。だが今では「ものが見えておらず、若気の至りで発言した」と反省の弁を語る。公舎住まいで、すぐに県庁に駆け付けられるが、緊急呼び出しもなく、県の業務への支障はなかったという。

改めて知った。育休を取って父親としての経験を積んで」と世のパパたちに呼びかける。文と写真・大野友穂子

東日本大震災以降、家族のつながりの重要性を「一層強く感じるようになったのも、取得のきっかけだった。「家族で時間を作ることの大切さを

実際に休暇を取るのには難しいと聞きます。自分が小さな実践になれば」。都道府県知事で育児休暇を取るのは湯崎英彦・広島県知事に次いで2人目だ。

結大ちゃんを入浴させたり、おむつを替えたりした。その様子を報道関係者に公開し、我が子を抱っこしてあやす、子煩悩な父親の姿が県民に伝えられた。休暇は丸1日が2回、半日が3回という短いものだったが、妻のシンクロノイストスミミング五輪メダリスト、武田美保さん(35)は「子育ての悩みは母親一人で抱え込みがち。一緒に育児をしてくれると安心できる」と語る。

「昨年、長男が誕生。主人は知事の仕事を忙しいと感じますが、子育てで奮闘されています。」「夫はなかなか休んでくれないので、私も休んで入れたいと思っていました。」「夫はなかなか休んでくれないので、私も休んで入れたいと思っていました。」「夫はなかなか休んでくれないので、私も休んで入れたいと思っていました。」

## オトコの子育て



元シンクロナイズドスミミング日本代表 武田 美保さん

「女性も男性がもつやろ」と言われて、最初は「努力が足りない」と思っていた。だが、大初産の経験から、育児は「努力が足りない」と思っていた。だが、大初産の経験から、育児は「努力が足りない」と思っていた。だが、大初産の経験から、育児は「努力が足りない」と思っていた。

ただ、みほ 京都市出身。アトランタ、シドニー、アテネ五輪で5つのメダル獲得。2007年に鈴木英敬氏(現三重県知事)と結婚。解説者、指導者、TVなどで活躍。36歳。

## 公平な分担より心遣いを

「公平な分担より心遣いを」という言葉が、夫婦の間でよく聞かれるようになった。公平な分担は、夫婦の間でよく聞かれるようになった。公平な分担は、夫婦の間でよく聞かれるようになった。公平な分担は、夫婦の間でよく聞かれるようになった。

「公平な分担より心遣いを」という言葉が、夫婦の間でよく聞かれるようになった。公平な分担は、夫婦の間でよく聞かれるようになった。公平な分担は、夫婦の間でよく聞かれるようになった。公平な分担は、夫婦の間でよく聞かれるようになった。